



みんなで楽しく気軽にちよつとずつのボランティア



3/1 芸術祭 オープニングで朗読(ナレーションサークル風)

ボランティアroom

身近な“あの人”にちょっとイ話をインタビュー

ナレーションサークル風 ～心の感動を届けたい～

こころ豊かに暮らそう

平成7年5月 視覚障がい者の方の要望で「広報たちあらい」をテープに録音して提供するという目的で発足した「ナレーションサークル風」。その後広く住民の皆さんと朗読を通して感動を共有していきたいと活動の幅を少しずつ広げていきました。発足して20年、ナレーションサークル風の大きな目標である「赤ちゃんからお年寄りまで声を届けたい」という思いは確かな活動として形づくられているということです。

〈子どもたちへ〉

毎週土曜日に開催している図書館でのお話し会、月1回はナレーションサークル風の担当です。年3回の図書館イベントにも参加しています。



図書館クリスマス会

〈朗読公演〉

朗読公演では、台本作りや映像、音楽選び等すべて手作り!!

正にナレーションサークル風の本領発揮です。皆さんと感動を共にした時の喜びは格別!!



中学校での朗読会

〈障がい者・高齢者へ〉

障がい者施設、高齢者施設等で定期的にお話し会をしています。朗読だけでなく、大型紙芝居や手遊び、歌や楽器演奏等も交えてみんなで楽しんでいます。



フレグランス大刀洗



聖ヨゼフ園

〈スキルアップ〉

年1回の朗読研修会、毎回プロのアナウンサーを講師に招いて朗読の基礎、楽しさを学びます。



利用者の声

原 謙二さん

録音を聞くまでは来院されるお客さんから「〇〇が載ったよ」と聞くものの、内容がわからなかったけれど、広報や議会だよりを

CD を聞くことによって生の情報を自分で手に入れることができるようになって、ありがたい。

平凡な毎日にちよっぴり刺激を求めてみませんか？
その刺激が「心の感動」に繋がれば、平凡な生活が豊かな生活になるかも…!!
ボランティアは、人生をもっと楽しく充実したものにしてくれるかもしれませんよ…



ナレーションサークル風
代表
福村 千代美さん

ふくおか“きずな”フェスティバル報告(2月15日(日)春日市グローバープラザ)

～ボランティアのこれから～

年に一度、県内各地から1,000名ほどのボランティア団体が一堂に集まり共に学ぶふくおかきずなフェスティバル。九州産業高等学校吹奏学部による若さ溢れる演奏に迎えられ開会式が始まりました。式典の後、午前中はさわやか福祉財団会長／堀田 力氏による「新しいふれあい社会の創造～ボランティアのこれから～」と題して講演が始まりました。国の財政が厳しくなる中、介護保険制度が変わりつつあります。住民同士の助け合いを中心にした地域づくりは、ボランティアに期待するところが大きいようです。

「みなさん、日本の国を豊かにするためにボランティアをしましょう。」

堀田さんのさわやかな声かけが会場を暖かく包み込みました。

午後から私が参加した分科会で高齢者傾聴ボランティア*の話があり、90歳の方も活動していると聞いて、楽しみながらボランティアをすることがひいては自分も元気を貰い、その事が相手の幸せにもつながるものだと感じました。

吉川 昇 (ナレーションサークル風)

* 傾聴ボランティアとは、苦しみや悩みをじっくり聴いて共感し、ありのままを受け入れるボランティア

講師／堀田 力氏

さわやか福祉財団会長・弁護士



ボランティア連絡協議会の ほっこり井戸端サロン

～お茶を飲みながらみんなで楽しく～



今年度最後は、配食ボランティア青い鳥の担当で開催されました。平成9年より菊池校区で活動が始まり、全4校区でひとり暮らしの高齢者・障がい者世帯等へ、見守りがかねて月2回、手作りのお弁当を配達しています。井戸端サロンでは、各校区の代表者からオリジナルな活動報告があり、和気あいあいの中、17年間の様々な体験話に会場が盛りあがりしました。最後には4校区の皆さんが腕によりをかけたお料理が並べられ参加者全員で試食させて頂き、場の雰囲気は最高潮になりました。



配食ボランティア「青い鳥」
活動紹介(1月19日)

月2回の配食日には、お弁当を作る人、配達する人に分かれ自分にできる範囲内での活動をしています。配達先で声をかけると、利用者の方からお礼の言葉を頂いたり、回収容器の中に感謝のお手紙が入っていたりと、とても嬉しく思います。ひと仕事を終えての雑談も楽しみのひとつです。料理の隠し味や、野菜作りのコツ等を教えてもらいます。青い鳥の大きな課題は、伝統を引き継ぐ若手が少ないこと、長年の経験と知恵を若い人に継承してもらいたいと願っています。



大刀洗校区「青い鳥」の
山内博文さんより

私のボランティア日記

ボランティアに年齢はない これからもつづく私のボランティア

「たんぽぽの会」を卒業します

平成9年に、赤十字主催の介護研修を受講したことがきっかけで、施設ボランティア「たんぽぽの会」を立ち上げた庄島さん。「旅路の荘」を皮切りに、盲養護老人ホーム「寿光園」での介護ボランティア、そして「ヨゼフ園」では利用者の方々の介護ボランティアだけでなく、施設の庭の手入れや洗濯など、自分たちに出来るボランティアを精力的に続けてこられました。輪を広げたいとの思いで「たんぽぽ」と名付け、常に10名余りの仲間と活動してこられて17年になりますが、近年ではボランティアさんの年齢も高くなり、輪を広げることが困難となってきたそうです。そこで



断腸の思いではありますが、今年度で「たんぽぽの会」は卒業することを決断したということでした。

「たんぽぽの会」代表 庄島美智子さんにお話しを聞きました



生涯ボランティア

しかし、これで終わることなく、これからは、6年前に立ち上げた車椅子ダンス「矢車草」の活動に全力を注いでいきたいと庄島さんは目を輝かせます。彼女はこの他にも「ちゃお」や「語ろう会」「見守り隊」など、多くのボランティア活動に参加され、「ボランティアに年齢はない、これからも、自分に出来るボランティアを続けていきたい」と爽やかな笑顔で語って下さいました。



「たんぽぽの会」の皆様
「真心の愛」をありがとう!



聖ヨゼフ園地域福祉部の皆さん

すっかり当園の日常の一部となっていた皆様の卒業。ただただ寂しく、うまく言葉が見つからない様子の利用者様でしたが、悩みに悩んでやっと一言。「また来てね」。この一言に、すべての想いがつまっています。

長い間、たくさんの「真心の愛」を与えてくださった会の皆様、会をまとめてくださった会長の庄島様に心から感謝申し上げます。そしてこれからもぜひ、「また来てね」。これが聖ヨゼフ園みんなの願いです。

編集スタッフ



スマイル
代表 福村 宮生
福村 千代美
矢ヶ部 美夕紀
田島 孝三

春です！何か新しいことをはじめてみませんか？
散歩のついでに子どもたちの見守りをしたり、好きな料理で高齢者向けのお弁当を作ったり…。ボランティア活動はあなたの生活を元気に・豊かにしてくれる魅力がいっぱいです。